

令和7年度 東京都立小平南高等学校 学校経営報告

東京都立小平南高等学校長
小林 和人

I 今年度の取り組みと自己評価

Ⅰ 教育活動への取り組みと自己評価

(1) 学習活動（確かな学力を育てるために）

今年度の取組目標	実施内容等
<p>確かな学力の定着とさらなる向上を目指す。そのために、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びを実感できる授業、皆が考える授業、Society5.0を生きる力を育む授業、グローバル人材育成を視野に入れた授業等を計画的に推進する。また、保健体育の授業をとおして、体力の向上、健康の保持増進に努める。</p>	<p>① 教科主任会を年間10回実施し、定期的に教科会を開くことにより、情報の共有と連携を図った。全教科・科目で大学進学を意識した年間授業計画を年度当初に作成し、生徒・保護者に周知するとともにホームページにも公開した。</p> <p>② 毎時間授業の「ねらい」を明確にすることで、基礎・基本の定着と学力の向上を図った。</p> <p>③ 課題・宿題・小テスト等を教科と学年が連携して計画的に課し、予習・復習を前提とした授業を行うことで、生徒に学習習慣を身に付けさせた。生徒の学力向上につなげ生徒を伸ばす授業を、各教科で検討し実施した。</p> <p>④ 学習記録の確認や調査、面談等多様な方法により家庭学習の状況等を把握し、保護者とも連携を図りながら、生徒が主体的に学習に臨むよう、家庭学習習慣を確立させた。</p> <p>⑤ ICTを活用した教育活動を推進し、実施率97.6%であった。</p> <p>⑥ 自習室の環境整備をとおして利用を促進し、生徒の自学自習を習慣化する取組や家庭学習の動機付けとした。</p> <p>⑦ 定期テストや実力テスト（年3回）の結果分析と模試分析会（教員対象2回、生徒対象8回）に基づき、学習指導の成果検証及び学力向上策の具体化を行い、指導方法の改善にいかした。それにより、生徒全体の進路希望を実現できるよう学力の向上を図った。</p> <p>⑧ 英語の授業等でのJET・ALTの活用や「TOKYO GLOBAL GATEWAY」（1年生）・「オンライン英会話」（2年生）に取り組み、総合的な英語力を養った。</p> <p>⑨ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、体力の維持向上、心身の健康の保持増進を図るため、スポーツの多様な楽しみ方を学ぶ体育授業を展開した。</p> <p>⑩ 探究の見方・考え方を働かせて地域や社会を総合的に学ぶ活動を通じ、自己の進路や目標とする将来についての課題を設定し、自己の在り方生き方を考えながら探究活動に取り組む力を育成した。</p> <p>また、「総合的な探究の時間」では、地域との連携活動に加え、「地理総合」や「英語コミュニケーションⅠ」等、教科を横断する形での学習を行い、知識の定着と理解を一層深めることができた。</p> <p>※1年生の探究学習の一環として、株式会社ファーストリテイリングが UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）と協働で実施した「届けよう、服のカプロジェクト」において、最優秀賞を受賞した。（全国769校参加）</p>

	<p>⑪ 成年年齢引下げに伴い、生徒自身が在学中から社会との関わりをもち、社会の一員であることの自覚を深めるため、「公共」、「政治・経済」の授業をとおして主権者教育を実施した。</p> <p>⑫ 長期休業中等の講習を 34 講座（昨年度 25 講座）実施し、生徒の学力向上と進路希望に応じたきめ細かな指導を行った。（延べ 1882 名参加）</p> <p>⑬ 年間 3 回以上の教員相互の授業見学や指導教諭による模範授業を行い、学校全体の授業力向上に努めた。</p> <p>⑭ 各学年および国語・数学・保健体育・家庭科などの各教科において、調べ学習や資料を活用した学習を取り入れ、生徒の主体的な学習態度と読書習慣の育成を図った。また、図書館教育の充実をとおして読書活動を推進し、豊かな言語能力の育成に努めた。</p>
--	--

（２）進路指導（生徒の進路希望実現のために）

今年度の取組目標	実施内容等
<p>3年間を見通した進路指導計画に基づくキャリア教育を組織的に進めるとともに、客観的な進路データの収集とそれに基づく最新かつ正確な進路情報の提供と発信に努め、生徒の希望進路の実現を目指す。</p>	<p>① ②生徒一人一人が将来の卒業後の進路希望を実現するため、進路指導部が主導して3年間を見通した進路計画を立案し、計画的に取り組んだ。進路指導部・学年・教科が協働し、LHRや総合的な探究の時間等を活用した体系的なキャリア教育に取り組み、将来の職業選択を見据えた進路選択ができるよう推進した。</p> <p>③ 生徒が早期に進路目標を立てることができるよう、社会人や卒業生、高大連携等も活用しながら各種進路ガイダンスを企画・実施した。その他、卒業生による合格者座談会、3年生及び保護者対象受験説明会等を実施し、大学進学への大きな動機付けとなった。特に、2年生対象合格者座談会は、先輩の実体験の話を聞くことで、生徒にとって良い刺激となり好評であった。</p> <p>長期休業中等の講習を 34 講座実施し、生徒の進路希望に応じた指導を行った。</p> <p>④ 定期考査や実力テスト、模試分析会（教員対象 2 回、生徒対象 8 回）を活用して、生徒の進路実現に向けた学力分析や研修会を実施し、教員間で情報の共有を図り、学力向上や授業改善と進路指導に役立てる取組を行った。</p> <p>⑤ 進路調査を実施し、本校生徒の正確かつ客観的な実態把握に努め、そのデータを全職員が共有することで進路指導に活用した。</p> <p>⑥ 進路室のインターネットの活用やオープンキャンパスへの参加等を促し、生徒が自ら情報収集できる力を育てた。</p> <p>⑦ 面談週間を利用して 1・2 年生全員との二者（三者）面談を実施し、生徒・保護者との共通理解に基づく進路実現に最善な科目選択をはじめとした進路指導を、学校・生徒・家庭が一体となって行った。</p> <p>⑧ 資格取得に向けた講習を実施し、英語検定・漢字検定等の資格試験に積極的に取り組ませた。英語検定準 2 級以上合格 95 名、漢字検定準 2 級以上合格 10 名であった。</p>

（３）生活指導（豊かな人間形成のために、安全で安心して送ることのできる高校生活のために）

今年度の取組目標	実施内容等
<p>挨拶の励行、基</p>	<p>① 校内での挨拶の励行、年間 3 回の生活委員会を中心とした「挨拶運動」、定期</p>

<p>本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の醸成や思いやりの心を身に付けた生徒を育成する。また、道徳教育の全体計画、学校安全計画の全体計画に基づき、全教育活動をとおり、道徳教育、安全教育の充実に取り組む。</p>	<p>的・継続的な身だしなみの指導を実施した。</p> <p>学年を中心に、学期遅刻5回ごとに指導を実施した。また、学年集会で注意を喚起するとともに、保護者会を通じて家庭の協力を依頼した。</p> <p>② セーフティ教室において、SNS 等の利用方法や情報リテラシー教育の充実に図った。</p> <p>③ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年間3回実施し、いじめの早期発見及び未然防止に組織的・計画的に取り組んだ。</p> <p>④ 教職員を対象とした校内研修を年間3回実施し、人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底と体罰・暴言等の防止を図った。</p> <p>全校集会等で、いじめや体罰は許さないことを生徒に伝え、「いじめ防止基本方針」や「体罰根絶宣言」をホームページに掲載し生徒・保護者に周知した。</p> <p>⑤ スクールカウンセラーによる新入生全員面接に加え年間306回の教育相談を行うとともに、教育相談委員会を各学期に1回開催し、いじめや不登校等の未然防止及び心の悩み相談に組織的・計画的に取り組むなど、相談機能の充実に努めた。</p> <p>⑥ 東京都保健局をはじめとした外部機関と連携して、セーフティ教室や生活講話を実施し、薬物乱用防止の指導の徹底や交通安全等、自らの健康や安全を適切に管理する能力を育成した。</p> <p>⑦ 道徳教育の全体計画に基づき、全教育活動をとおり道徳的価値を自覚させ、他者を思いやる心や規範意識の育成を図った。</p> <p>⑧ 美化委員会を活用しながら校内の美化に努めた。日々の清掃や大掃除により生徒の校内美化に勤しむ態度と習慣を身に付けさせた。また、ゴミの分別と外部から持ち込んだゴミの持ち帰り指導を徹底し、校内のゴミを減らすよう呼びかけを行った。</p> <p>⑨ 特別支援教育の視点に立って、ホームルーム担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等による情報共有を重ねた。また、「都立学校発達障害教育推進エリアネットワーク」の活用や都立東久留米特別支援学校との連携を図り、特別支援教育を推進した。教職員対象の「合理的配慮と特別支援」という校内研修を実施した。</p> <p>⑩ 学校安全計画の全体計画に基づき、小平消防署と連携し、火災や地震を想定した避難訓練を年間4回実施した。また、地域住民と連携した防災訓練を、小平消防署の協力のもと10月に実施した。</p>
---	--

(4) 特別活動・部活動(生き生きとした高校生活のために)

今年度の取組目標	実施内容等
<p>部活動や種々の学校行事をとおり、協働し、互いに高め合う姿勢や態度を育成するとともに、生徒一人一人が自分の居場</p>	<p>① 学校行事は、生徒が帰属意識や参加する喜びを実感できる内容であった。今年度、生徒の学校行事満足度は83%(昨年度81%)であった。</p> <p>② ホームルーム活動をとおり望ましい人間関係を形成し、帰属意識や連帯感を育成した。</p> <p>③ 部活動では部員同士の連帯感を深め、互いに切磋琢磨し、高め合う姿勢や態度を育んだ。また、文武両道を指導し、学習と部活動の相乗効果で人間形成を図った。</p>

<p>所がある、自分が輝く場所がある学校を創る。</p>	<p>④ 生徒の部活動への加入率・継続率を高め、積極的で活力のある充実した学校生活を送らせるよう努めた。今年度部活動加入率は 86%であった。</p> <p>⑤ ホームページや SNS、部活動掲示板等を有効に活用し、日々の活動状況や成果を学校内外に積極的に公表し、活動の動機づけとした。美術部や写真部の活動成果を紹介するために、作品の校内展示を常時行った。</p> <p>⑥ 補習等と部活動が重なった場合の補習優先の原則の徹底や、活動時間の厳守等時間規律の徹底を図ることで、限られた時間内での計画的かつ効率的な活動ができた。</p> <p>⑦ 生徒会組織を活発に機能させることで、生徒が自ら考え、主体的に判断・行動できる場面を意図的に設定しながら適時適切な指導を入れ、生徒に自信と責任感をもたせることができた。</p> <p>また、1年生を中心として、地域のイベント等に参加するなど、地域と連携したボランティア活動に取り組んだ。</p> <p>※美術部が「東京都高等学校文化祭 美術・工芸部門 第 36 回中央展」に出品し、東京都教育委員会賞 2 名、東京都文化連盟会長賞 1 名、奨励賞 1 名の計 4 名が入賞した。このうち、東京都教育委員会賞を受賞した 2 名と東京都文化連盟会長賞を受賞した 1 名は、来年度開催される「第 50 回全国高等学校総合文化祭(あきた総文 2026)」に東京都代表として出展予定である。本校の総文祭への出展は 6 回目となる。</p> <p>※写真部が「東京都高等学校文化祭 写真部門 地区大会」で最優秀賞を受賞しさらに「第 32 回関東地区高等学校写真展」で優秀賞を受賞した。</p>
------------------------------	---

(5) 健康づくり (健康で豊かな高校生活を送るために)

今年度の取組目標	実施内容等
<p>生徒の体力の向上と、心身の健康の保持増進を図り、豊かな学校生活を送ることができるようにする。</p>	<p>① 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、体育授業の工夫、体力テストの活用、部活動の活性化や健脚大会完歩(完歩率 94.6%)への取組等において、体力向上を推進し、心身共に健康で、しなやかさを備えた生徒の育成を図った。</p> <p>② 保健の授業や家庭科の授業をとおして、食育や心身の健康に関する内容を適宜取り上げ、感染症対策を含んだ生活防衛意識を高めた。</p> <p>③ 2名のスクールカウンセラーを活用し、心身の健康に不安をもつ生徒・保護者に対する相談支援体制を整えた。(教育相談年間 306 回)</p>

(6) 関係機関との連携・広報活動 (本校のよさを都民にアピールし、志願者を増やすために)

今年度の取組目標	実施内容等
<p>入学したい学校を目指すため、全教職員の協力体制のもと、小平南高校の教育実践を広く都民、中学生に発信し、本校の教</p>	<p>① ホームページを年間 331 回(昨年度 196 回)更新し、本校の教育活動の様子を、中学生をはじめ広く都民に発信した。</p> <p>② 本校の特色や教育活動の様子を学校訪問者へ伝えるため、芸術科、家庭科、情報科等の授業や美術部・写真部の成果展示を常時校内で行った。</p> <p>③ 夏季休業中学校見学会 13 回(571 組 1129 名参加)、文化祭で中学生向け相談会(11 組 23 名参加)、1年生による母校訪問 98 校(郵送 102 校)、中学生とその保護者対象授業公開 6 回(71 組 142 名参加)、学校説明会 2 回(490</p>

育活動に対する理解や信頼を得る。	<p>組 980 名キャンセル含む) を実施した。</p> <p>④ 都立高校 EXPO の他、計 3 カ所の学校外での説明会に参加した。(約 832 名参加) また、夏季休業中に 67 校の塾訪問を行い、10 月に学習塾対象の学校説明会を実施した。</p> <p>⑤ 随時部活動体験入部を行い、小平市立小平第四中学校と東大和市立第一中学校において本校教員による出前授業を実施し、中学生に本校の授業や部活動の様子を知ってもらう機会を設けることができた。</p> <p>⑥ 小平市立小平第十小学校児童が、職業体験のため来校した。また、地域のスーパーマーケットにおいて本校美術部や写真部の作品展示を行ったり、小平市と連携して、全校生徒対象の「ヤングケアラー講話」を実施した。その他、学校開放事業により、グラウンドやテニスコートの開放を行うなど、地域交流・地域貢献に取り組んだ。</p> <p>※1 学年の探究学習(教科「人間と社会」の代替)では、JR 東日本、小平市観光協会、国分寺市と連携を図った。</p>
------------------	--

(7) 学校運営・組織体制(本校の使命を達成できる機能的で活力ある組織づくりのために)

今年度の取組目標	実施内容等
<p>教職員の意識改革を図り「チーム小平南」として、分掌・学年・教科・経営企画室間の連携を強化し、学校経営計画の具現化のため、企画調整会議を基軸とした学校経営を行う。計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p>	<p>① 学校評価アンケートの結果をふまえ、学校改善の立案や対応を行い、募集対策にも適切に活用していくことができた。課題を教職員で共有し、企画調整会議を中心に具体的対応策を検討し、改善する流れを確立することができた。</p> <p>② 各種委員会、校内研修等を機能させ、教職員が協働して教育課題の解決に努めることができた。</p> <p>③ 各システムの利活用や部活動指導員・外部指導者の導入、諸会議の上限時間の設定等計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、ライフ・ワーク・バランスの実現を図った。また、産業医と連携して定時外在校時間及びその要因となる業務内容を把握し指導してきた。</p> <p>④ 教職員一人一人がその職責を十分に自覚するとともに倫理観や規範意識等をより一層高め、「教職員のサービスに関するガイドライン」に基づき、サービスの厳正に努めた。</p> <p>⑤ 経営企画室長の事務処理方針に基づき、経営企画室の経営参画を推進した。</p> <p>⑥ 日常的に「報告・連絡・相談」を行うことにより、経営企画室員と教育職員の連携を図った。</p> <p>⑦ 自立経営推進予算の計画的な事務執行を進めた。</p>

(8) 国際理解教育(グローバル人材の育成に向けて)

今年度の取組目標	実施内容等
<p>東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、国際理解教育をすすめる、社会に積極的に貢</p>	<p>① 令和 3 年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校の成果を受け、環境に配慮した生活を意識し持続可能な社会の一員としての姿勢を身に付けることができるよう指導した。</p> <p>② 「東京グローバル人材育成指針」に基づき、授業等での J E T ・ A L T の活用や「TOKYO GLOBAL GATEWAY」「オンライン英会話」事業等の取組をとおして、総合的な英語力の育成を図った。</p>

献しようとする態度を育成する。社会のグローバル化に対応できる人材を育成する。	③ 各教科の授業等で、国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力を育成するとともに、世界の一員としての自覚を高め、主体的に学び続ける態度と多文化共生の精神や協働する力を育成した。 JICA（国際協力機構）によって各国に派遣経験のある講師を招き、「国際教育講座」を実施し、国際情勢や異文化に対する理解を深めることができた。 ④ 次世代リーダーの要旨説明を実施し、留学の魅力をアピールした。
--	---

2 重点目標への取り組みと自己評価

重点目標	具体的な数値目標と結果	評価
学力向上と学習習慣の確立を図る。	○家庭学習習慣の確立 授業以外の平均学習時間 1学年 0.8時間（昨年1.1時間） 2学年 1.0時間（昨年1.0時間） 3学年 4.0時間（昨年4.9時間）	△ △ △
進路希望の実現に努める。	○共通テスト出願率 ⇒ 86.2%（昨年81.0%） ○国公立大学(含認定大学校)現役合格者(延べ人数) ⇒ 6名（昨年5名） ○早慶上理GMARCH等難関私立大学現役合格者(延べ人数) ⇒ 88名（昨年114名） ○國學院・成蹊・成城・武蔵・明治学院・日東駒専現役合格者(延べ人数) ⇒ 169名（昨年192名） ○長期休業中の講習等の講座数 ⇒ 34講座（昨年25講座） ○生徒の進路指導に対する満足度 ⇒ 78.0%（昨年73.0%）	◎ ○ △ △ ◎ ◎
部活動と学校行事の活性化を図る。	○部活動加入率（5月末段階） ⇒ 86.1%（昨年86.0%） ○生徒の学校行事に対する満足度 ⇒ 83.0%（昨年81.0%）	○ ○
組織的かつきめ細かな募集対策を実施し、本校の志願者を増やす。	○学校説明会の参加者数 ⇒ 980名（昨年1214名） ○中学校等への訪問（年間の延べ校数） ⇒ 200校（昨年198校） ○応募倍率（推薦） ⇒ 2.05倍（昨年2.18倍） ○応募倍率（一次） ⇒ 1.43倍（昨年1.30倍） ○ホームページの年間更新回数 ⇒ 331回（昨年196回）	△ △ △ ◎ ◎
学校評価を活用した学校改善を進める。	○学校評価アンケート回収率（生徒） ⇒ 86.5%（昨年66.5%） ○学校評価アンケート回収率（保護者） ⇒ 40.8%（昨年29.7%） ○学校評価アンケート回収率（教職員） ⇒ 64.3%（昨年72.0%） ※学校改善を進めるためにも、アンケート回収率の向上を検討してゆく。	△ △ △

◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成

II 次年度以降の課題と改善策

本校は普通科中堅校として、進路実績の持続的・継続的な向上を目指し、組織的な進路指導の充実、進学指導に対応できる授業力の向上、教育環境の整備を進めてきた。併せて、本校の伝統である落ち着いた穏やかな校風を維持し、生徒の心身のバランスが取れた健全育成を図ることを重視している。今後

も、教育活動を更に充実・継続し、生徒・保護者・地域からより一層信頼され、愛される学校となることを目指す。

○学習活動・進路指導

・「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への意識を生徒にもたせ、進路指導部を中心として進路に関する説明会や講習・補習などを実施して成果をあげている。今後は、進路実現に向けた生徒の自覚を三年間維持させること、これまでに蓄積されてきた進路指導データを有効活用して根拠に基づいた進路指導・教科指導を行っていくことが必要である。

・生徒・保護者が求める難関校への合格を実現するためには、十分な準備期間と確かな学力が必要である。そのためにも、基礎学力を着実に高め、家庭学習の時間を確保し、生徒一人一人の伸び代を丁寧に埋めていく取組が重要となる。基礎学力を充実させるには、宿題や課題を出すだけではなく、その内容や進め方が適切であるかどうか問われる。そこには、教員の指導力が大きく影響する。生徒の基礎学力向上と進路実現を支えるために、学校全体で授業力向上に向けた取組みを更に推進し、授業改善を一層進めていく必要がある。

・英語検定や漢字検定等の資格検定に、より積極的に取り組ませる。それによって、学力向上を図ることができ、進路希望の実現にもつながると考える。

○生活指導・教育相談

・本校はこれまで、豊かな人間形成のために、安全で安心して高校生活を送ることができるようのために、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指し、生活指導部と学年の連携を密にしながら、学校全体で取組んできた。次年度以降も、より組織的で一貫性のある生活指導を推進していく。

・SNS 東京ルールに基づき、情報リテラシー、情報モラルの育成により一層取り組む。

・教育相談委員会の計画的な実施及びスクールカウンセラー等による面接をとおして生徒の悩みの解決に努めるとともに、生命尊重に資する教育や SOS の出し方に関する教育を推進し、生徒の健全育成に向け学校の相談機能の充実を図る。

・特別支援教育に関して、教育相談委員会を中心に、学年・特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー等が連携をとり、すべての教職員が情報の共有を図ることができるよう校内体制を確立する。

○特別活動・部活動

・ホームルーム活動や部活動、学校行事など、様々な機会を捉えて、豊かな人間関係構築の取組をより推進する。

・部活動運営の適性化に向け部活動指導員や外部指導者等を活用し、競技力の向上を図るとともに、部活動顧問の業務改善を図る。

・ボランティア活動を推奨し、地域との連携・交流の活性化をより推進する。

○広報活動・その他

・ホームページの充実をはじめとする募集対策活動に力を入れ、入学者選抜における応募倍率の向上を図る。また、出前授業等、中学生を対象とした広報活動の強化を推進する。

・学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価は、授業満足度 70%（昨年度 58%）、進路指導満足度 78%（昨年度 75%）、学校満足度 84%（昨年度 85%）であった。生徒や保護者のニーズや期待を真摯に受け止めるとともに、小平南高校の更なる魅力を創出するような教育活動を引き続き推進していく。

・教職員に対して必要に応じ産業医による面接を実施し、また、計画的な年休取得を推進することにより、在校時間の削減に努め、教職員の心身の健康の保持・増進を図る。